

特定看護師・認定看護師

当ステーションには特定看護師・認定看護師が在籍しております。（以下 日本看護協会 HP より引用）

*緩和ケア認定看護師 2名在籍

- ・疼痛、呼吸困難、全身倦怠感、*浮腫などの苦痛症状の緩和
- ・利用者、家族への喪失と悲嘆のケア

*リンパ浮腫療法士は3名在籍

浮腫でお困りの方には緩和的施術も可能です。

*特定行為研修終了 棚瀬裕子

・創傷管理関連

- 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
- 創傷に対する陰圧閉鎖療法

・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

- 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
- 脱水症状に対する輸液による補正

*皮膚・排泄ケア認定看護師 棚瀬裕子

- ・褥瘡などの創傷管理およびストーマ・失禁の排泄管理
- ・利用者、家族の自己管理およびセルフケア支援

ステーションの看護体制

- ・当ステーションの看護師5名全員看護師歴20年以上のベテラン看護師です。
- ・担当看護師を固定するような形をとっておりませんので、スタッフ全員が交代で利用者様を訪問するようにしております。早朝・夜間・深夜・休日に緊急訪問した利用者様の様子は端末を通じてわかるので、シフトの関係で対面できなくても電子カルテの看護情報のもとに訪問することができます。

看取りまでの流れ

医療保険・介護保険

主治医から訪問看護指示書により指示を受ける



(介護保険対象の方は担当者会議)



ご利用者様と契約し、訪問開始



- ・主治医や薬剤師との連携
- ・訪問系サービスや福祉用具など本人・家族に適したサービスを受けられるよう、居宅介護事業所・地域包括支援センター（ケアマネージャー）との連携を行う



看取りが近くなってきたら、在宅での看取りに対する本人・家族の思いを確認する



死亡確認（主治医）



本人と家族との時間をとり、その後エンゼルケアの実施



後日、弔問（グリーンケア）

訪問看護ステーションタック

〒141-0001

東京都品川区北品川 5-15-25

ひとみハイツ 103

TEL : 03-6277-0794 FAX : 03-6277-0914

Mail : info@tack-kango.com



訪問看護ステーション タック (在宅看取り)



(医療機関・居宅介護支援事業所用)

お問い合わせ

03-6277-0794

タック（訪問看護）の役割

2年で55名のお看取り

タックは2020年4月開設以来、積極的にがん終末期の方を受け入れてきました。これまでの約2年間でサービスに入ったがん終末期の利用者71人のうち、在宅で看取り支援を行った方は55人でした。在宅看取りの割合は8割近くになります。

厚生労働省が2017年に実施した調査によると、訪問看護ステーションが半年間に実施したターミナルケアの人数は平均で4人でした。調査時期は違いますが、タックは11人と平均を大きく上回っています。

住み慣れた自宅で最期を迎えたい…

看取ってあげたいご家族の思い…

タックに所属する看護師は5名で、規模としては決して大きいステーションではありません。小規模ステーションながら在宅看取りを可能にする体制は、緩和ケアのスキル、緊急体制の整備、関係者とのチームワーク、そして何よりも最後まで住み慣れた家で、ご家族のそばで過ごしたいというご本人、ご家族の思いが大切と考えています。

はじめは家族に迷惑をかけたくないと思っていたご本人も、家族の傍に居たい。自宅での看取りは難しいと感じていたご家族も、自分らしく過ごすご本人の姿をみて、突き動かされ、気持ちが変わることも多くあります。決して自宅での看取りを無理強いするわけでもなく、介護していくうちに不安が軽減され、自然の流れで在宅看取りしたいという気持ちになれるようなサポートを目指しています。

本人のご希望に寄り添い、残されたご家族の悔いが残らないよう最大限のサポートをさせていただきます。

グリーフケア

グリーフケアとは…身近な人との死別を経験し、悲嘆に暮れる人を、悲しみから立ち直れるように支援することである。グリーフとは深い悲しみを意味し、遺族に寄り添う姿勢が大切であるとされている。

「グリーフ（悲嘆）のプロセス」という長期に渡って特別な精神状態の変化を経て、大きな悲しみを乗り越えて行く過程を支援し、最終的には遺族が立ち直れるまで寄り添うことを目的とする。

引用参考文献
日本グリーフケア協会／看護 roo! サイトより

タックでは、グリーフケアの一貫として遺族訪問を行っています。大切な人を喪失した悲しみがすぐに癒えることは難しいですが、最後の時をともに過ごした看護師にだからこそ話せることもあります。

訪問中には知り得なかったエピソードもあり、故人の人間性を垣間見ることができ、私たちとってもご遺族とお話することが喪失を癒す時間にもなっています。

遺族訪問後、主治医・ケアマネージャーなど一緒に連携をとってきた方へ、弔問時の記録を送付させていただいております。

送付後、ご遺族の事を気にされていた主治医・ケアマネージャーからは、「ご遺族の今のお気持ちや状況がわかり、安心しました。」「ご遺族のことが気になっていましたが、タックの皆さんの残されたご遺族への心遣いに感銘を受けました。」など関係者の方からもお電話やお手紙を頂戴することもあり、励みになっております。

ご遺族より…

以下は一部ですが、弔問後ご遺族から頂戴したお言葉、お手紙より一文をいくつか紹介させていただきます。

がんになる前から来てくださっていたタックの皆さんだから、がんになってもこうして寝たきりになっても母も安心して身を任せていられたのだと思います。私も母も皆さんを信頼していました。

電話をすればいつでも駆けつけていただいて、どんなに心強かったか。母の表情を見れば、最期まで痛みがなかったのだとホッとしています。

(KP: 娘様より)

家で看取ることができてよかったです。看護師さんに来てもらえてありがたかったし、心強かったです。ほんとに良くしてもらって。もっと早く連れて帰ってくればよかったですと思います。みんなに在宅医療は良いつて話しています。

(KP: 娘様より)

家に帰ってきてからは皆さんが毎日来てくださったから全く大変ではなかった。大変だったのは、家に帰ると決める前。兄弟や家族で色々相談して家に連れて帰ろうと。かわいそうな思いはさせたくないって決めました。

入院中はコロナ禍でなかなか会えず、寂しい思いもさせてしまったので帰って来られてよかったです。

最期に良い方々に出会えて、皆さんに本当に感謝しています。ありがとうございました。

(KP: 息子様より)

